

Case Report 家族と歩んだスキンケア



80代 女性 大腸がん末期
利用サービス：
訪問診療、訪問看護、福祉用具
リンパ浮腫の程度：重症

初回訪問時は、強い下肢の浮腫とリンパ漏れにより衣類が濡れていました。家族と相談しながら着圧ソックスで軽度圧迫し、下肢の倦怠感の軽減と滲出液の漏れをコントロール。さらに1日1回、清潔・保湿・保護と簡単なマッサージを続けていただいた結果、初期は下肢がパンパンで触れることも難しい状況でしたが、リンパ漏れが少しずつ改善し、最終的には治癒へ向かいました。皮膚損傷も悪化することなく、浮腫も軽減。お別れの日には、家族が用意してくれたお気に入りの洋服に着替えて旅立たれました。家族は「スキンケアをしなければ、最期の日もガーゼを貼ったままだったかもしれません。おしゃれが大好きなきれいな母の姿で見送ることができてよかった」とお話しされていました。

協力が難しいケースでは…?

家族のケア参加が難しい場合は、まず看護師のケアを見てもらい変化を共有することで「ケアの意味」が伝わります。「短時間」「できる範囲」からの参加でも成功体験が生まれ、家族の自信と意欲につながります。

Message 尊厳と“つながり”を守るケア

終末期のスキンケアは、皮膚の状態を整えるだけではありません。やさしく触れるたびに、その人の体温や呼吸、表情の変化を感じ「今ここに生きている」ことを確かめ合える大切な時間になります。

リンパ浮腫のある皮膚はとても繊細で、わずかな刺激でも苦痛につながります。だからこそ、清潔にし、潤いを保ち、守るケアを通して、少しでも心地よく、安心して過ごせる時間を届けたいと思っています。触れる手は、看護師や家族の「技術」であり、同時に「心」でもあります。どんなに小さなケアでも、その人を思う気持ちは必ず伝わり、その温もりが、患者さんと家族の安らぎや“つながり”を生み出します。

こうした触れ合いの積み重ねは、家族が小さな変化に気づきやすくなるだけでなく、「自分も支えられた」という役割感や納得感を育み、旅立ちの瞬間を尊厳を保った記憶として心に残す力にもなります。

リンパ浮腫患者の圧迫療法によるトラブル対策のコスト試算 [1ヶ月]



1ヶ月あたりのスキンケアに係るコストの詳細【予防的ケアの有無】

予防的スキンケアあり		予防的スキンケアなし	
スキンケア	3,021円	実施なし	0円
症状1 圧迫療法を実施する場合	267,416円	症状1 圧迫療法を実施する場合	267,416円
症状2 リンパ液の滲出などのトラブルが発生した場合	2,745円	症状2 リンパ液の滲出などのトラブルが発生した場合	2,745円
1ヶ月あたりの費用	270,437円	1ヶ月あたりの費用	267,416円
保険適用内コスト	230,274円	保険適用内コスト	231,287円
保険適用外コスト	37,142円	保険適用外コスト	38,874円

*本試算表は、「スキンケアの意義を再考「スキンケアから始めるコストマネジメント」(持田ヘルスケア株式会社、2025年)より許諾を得て転載しています。

がん終末期のリンパ浮腫では、疼痛や滲出、感染、衣類の汚れなど、日常生活を揺るがす困りごとが多く、患者さんだけでなく家族にも負担が生じます。

最期まで「やさしく皮膚を守る」

—在宅で支えるがん終末期患者のリンパ浮腫とスキンケア—

「今を安楽に」「在宅ケアの判断と考え方」在宅では、病状が大きく変化するなかで「今、この瞬間に一番安楽であること」を最優先したケアが求められます。圧迫療法を継続するかどうかは、浮腫の程度よりも快適さ、皮膚の安全性・疼痛の有無を基準に判断します。圧を強めるのではなく、発赤や疼痛があれば緩める・短時間にするなど柔軟に調整します。圧迫の中止は治療をやめるのではなく、「目的を安楽に切り替える」ための判断です。その上で、皮膚を清潔に保ち、サポーターや長ズボン、長い

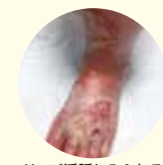
輸液量の調整や利尿薬の適正使用などにより、がん終末期では、全身性の浮腫は以前よりコントロールしやすくなってきました。一方で、リンパ節転移や治療後の組織変化による局所リンパ浮腫や皮膚の脆弱化は残りやすく、また病状の進行もそれぞれ違い、画一的なケア基準を設けにくいのが現状です。そのため、この時期のケアは浮腫を改善するよりも、掻痒感・貼り付きなどの不快症状を軽減し、皮膚を守ることが中心となります。感染予防の観点からも、清潔・保湿・保護を軸にした日々のスキンケアがOOLの維持に欠かせません。

がん終末期のリンパ浮腫ケア 大切にしたい軸



つづみ あや
堤 理 先生
株式会社 s-edge SOIN
訪問看護ステーション
代表取締役
外科や手術室などの急性期勤務を経て、母の闘病と看取りをきっかけに訪問看護師へ転身。現在は在宅で多くの終末期ケアと看取り支援に携わっている。

「今を安楽に」「在宅ケアの判断と考え方」リンパ浮腫が悪化して潰瘍や感染に至ると、被覆材や医療材料、訪問看護費だけでなく、衣類や寝具の交換・洗濯など、家族の負担も増加します。一方で、日々の清潔・保湿・保護を丁寧に行うことで感染を予防できれば、結果として「費用も家族の負担も軽くなる」ケアになります。もし皮膚トラブルが起きても、早期介入の方が費用負担は軽減できます。皮膚を整え感染を防ぐことが、患者さんの安楽と家族の負担軽減の両方を守ると考えています。



リンパ浮腫にみられるリンパ漏れの一例 (case reportとは別患者) 提供：堤先生

スキンケアが生む効果 費用と負担のバランスを考える

「清潔・保湿・保護を日常的に続けるには」がん終末期のリンパ浮腫では皮膚のバリア機能が大きく低下し、感染リスクも高まります。訪問看護の滞在時間は1日1時間程度であり、残りの時間を支えるのは家族です。だからこそ、無理なく続けられるケア手順が必要になります。1 泡でやさしく洗う 2 保湿剤で皮膚のバリア機能を補う 3 剥離部は被覆材で覆う この「清潔・保湿・保護」の3原則を1日10分ほどで行えるよう手順を共有することが在宅ケアの鍵となります。継続することで皮膚の状態が落ち着き、見た目が整い、患者さんにも家族にも安心感が生まれます。

がん終末期のリンパ浮腫 圧迫療法を調整するときの5つの視点

QOL	疼痛・不快感	皮膚状態	全身状態	本人・家族の意向
継続 圧迫により下肢の倦怠感・重さが軽減する	継続 圧迫しても疼痛がなく、軽快感が上回っている	継続 皮膚が清潔に保たれ、発赤・びらんがない	継続 ある程度の体動や座位保持が可能 循環動態が安定	継続 見た目や浮腫の改善を望んでいる
中止・緩和 締め付け・息苦しさ・倦怠感・動きにくさが強い	中止・緩和 圧迫部位の疼痛・しびれ・灼熱感が出現/増悪	中止・緩和 菲薄化・発赤・水疱・びらん・感染兆候あり	中止・緩和 衰弱が進行、臥床中心・循環動態が不安定	中止・緩和 安楽を優先したい希望がある

どれか1つでも「無理のサイン」があれば、圧迫は無理に続けず、その都度状態を見ながら中止や緩和を検討していくことが大切です。中止は治療をあきらめるのではなく、少しでも楽に過ごせる方法を一緒に探すというケアだと考えています。(堤先生)